

2018年度第4回支部集会【関東支部】

2018年10月28日(日)10:00-16:40(受付開始9:30)

文化外国語専門学校

主催:公益社団法人日本語教育学会

会場:文化外国語専門学校 D館5階

住所:〒151-8521 東京都渋谷区代々木3-22-1(最寄駅:JR他, 新宿駅)

交通アクセスおよびキャンパスマップ詳細は下記をご覧ください。

<http://www.bunka-bi.ac.jp/access/index.html>

参加費:1,000円(当日会場にて現金でお支払いください)

※ご参加予定の方は、[学会ウェブサイトの「マイページ」](#) から10月25日までに事前参加登録をお願いいたします。事前参加登録方法について詳しくは、[こちら](#) をご覧ください。非会員の方も「マイページ」をご利用いただけます(年会費納入等は不要です)。

※2018年度より予稿集は全て電子版となりました。事前参加登録をすると開催前に予稿集をダウンロードできます。事前参加登録をしなくても、会場での当日参加を受け付けますが、口頭・ポスター発表に関しての紙媒体での予稿集配布はありませんので、ご自身でインターネットにつながることのできるスマートフォン、タブレット、PC等を充電した状態でご持参ください(会場に参加者用の電源はありませんのでご注意ください)。

◆支部集会日程◆

9:30	受付開始	【D館5階エレベーター前】
10:00-10:20	開会式	【D53講義室】
10:30-11:00	研究発表(口頭発表)	【D53講義室】
10:30-12:00	交流ひろば(前半)①~⑦	【D56・51講義室】
11:10-13:10	チャレンジ支援委員会「発表応募支援セミナー」	【D58講義室】
12:10-14:10	調査研究推進委員会「ワールドカフェ」	【D53講義室】
14:20-15:50	研究発表(ポスター発表)	【D56講義室】
14:20-15:50	交流ひろば(後半)⑧~⑪	【D51講義室】
14:50-16:20	講演「アクティブラーニングを取り入れた授業実践」 黒崎誠氏・黒崎亜美氏(ラボ日本語教育研修所)	【D53講義室】
16:30-16:40	閉会式	【D53講義室】

<賛助会員ブースのご案内>

10:30~15:50, D54講義室にて書籍販売等行います。みなさまのご参加お待ちしております。

<昼食休憩について>

今回は一斉の休憩時間はありません。10:30~15:00に6階のE61講義室を休憩室として開放しますので適宜昼食をおとりください。「ワールドカフェ」については、昼食持参にてご参加ください。

【10:00-10:20】 **開会式** 会場:D53大講義室

【10:30-11:00】 **研究発表(口頭発表)** 会場:D53講義室

※本発表は査読審査を経た学会発表です。発表要旨は本プログラム末尾、詳細は予稿集をご覧ください。

母語話者日本語教師の属性による教授不安の差異

—日本語学校および専門学校に勤務するアンケート調査の結果から—

布施悠子(一橋大学大学院生)

【10:30-12:00】 **交流ひろば(前半)** 会場:①~③D56講義室, ④~⑦D51講義室

① **動画作成活動にもとづく対話型学習—地域の日本語ボランティア教室での実践から—**
中川祐治(福島大学)

動画作成にもとづく対話型学習の実践について報告します。同じような実践をされている方、社会型、対話型、協働型の学びについて考えていらっしゃる方、いろいろな現場で同じような問題意識を持っている方と意見交換をしながら一緒に考えていきたいと考えています。興味のある方はぜひお越しください。

② **書評読解からお勧めの読み物紹介へ—素材をどう解釈しどう取り込むのか—**
衣川隆生(名古屋大学)

中上級の学習者を対象に、書評の読解、そしてその書評を参考にしながらお勧めの読み物を紹介する発表、書評作成を行いました。学習者たちがどのように書評から表現を取り込み、自分の発表、書評作成に繋げていったかを紹介したいと思います。このような活動に興味ある皆さんとぜひ情報交換したいと思います。

③ **非漢字圏学習者の日本語学習における「漢字を書く」ことの位置づけ**
鎌田智瑛(文化外国語専門学校)

昨年度「非漢字圏学習者は、漢字学習についてどんな意識を持っているか、意識は変化したか」という調査を行い、出展しました。その際、いただいた意見を基に、今回は在校生と卒業生に対して、「漢字を書くこと」についてどう思っているのか調査しました。さまざまな方から意見をいただき、漢字教育について考えていきたいと思っております。

④ **受け答えに見られる不自然さの要因—OPI インタビュー時の「繰り返し」に着目して—**
西部由佳(早稲田大学), 岩佐詩子(桜美林大学), 萩原孝恵(山梨県立大学),
金庭久美子(立教大学), 坂井菜緒(武蔵野大学), 奥村圭子(山梨大学)

私たちは日本語学習者の円滑なコミュニケーションのための受け答えについて研究を行っています。今回はOPIインタビュー時の受け答えの際に見られる「繰り返し」に焦点をあて、会話分析を行いました。「繰り返し」の会話分析や日本語学習者の会話ストラテジーに興味をお持ちの方、この問題について一緒に考えてみませんか。

⑤ センシティブでデリケートなテーマを掲げた教室実践の展開ー学習者の未来に視点を置いた活動を考えるー

萩原秀樹（インターカルト日本語学校）

これまで生や死、性、また現在は戦争をテーマに学習者同士の意見交換や思考の掘り下げ、言語化を促す活動をしています。向き合う機会の少ないテーマですが、学習者の未来、生き方にインパクトを与え、実りをもたらします。遠慮なさらずお越しいただき、情報やお考えを共有し、今後の展開のためにネットワークが築けたら嬉しいです。

⑥ EPA 看護師の専門日本語教育を考えるー看護師国家試験合格後語ることから始める試みー

伊藤美保（名古屋経済大学）

EPA 看護師は、看護師国家試験合格後どのようなキャリアを歩んで行くのでしょうか？EPA 看護師に関わる方々が語り合える場作りを提案していきたいと考えています。素朴な疑問や取り組みなどを話し合いながら、それぞれの現場がつながる種を見つけ、育てていくことを目指しています。ぜひお気軽にお立ち寄りください。

⑦ 留学生に対するビジネス日本語教育の試み

松橋瑞貴（群馬大学）

日本での就職、あるいは、母国日系企業への就職を希望する留学生への日本語支援の方法について検討したいと思います。実践例を紹介・共有し、参加者の皆さんと一緒に考えたいと思います。実践に携わっている方、関心を持っている方等、多くの方々と意見交換ができればと思いますので、興味のある方はぜひお越しくください。

【11:10-13:10】チャレンジ支援委員会「発表応募支援セミナー」

会場：D58講義室

■「発表応募支援セミナー」<前半>：「そろそろ何か発表してみたいけど、どうやったらいいの?」、
「応募したけど不採用だったのは何がいけなかったの?」。そんなお気持ちを持っていらっしゃる皆さんを支援するのが、私たち「チャレンジ支援委員会」の使命です！今回は関東支部集会にお邪魔して「発表応募支援セミナー」を行います。

■「個別相談会」<後半>：「おせっかい侍」の面々が応募書類のチェックや、みなさんの研究スタートアップのお悩みについて、個別にご相談に応じます。支部集会・大会の発表応募書類のチェックをご希望される方は、学会ウェブサイト支部集会ページにある、「公益社団法人日本語教育学会発表要領」「発表要旨・web用要旨ファイル(zip圧縮フォルダー式)」もご持参ください。

※<前半>または<後半>だけ参加の方も歓迎します(途中からの参加も可能です)。

すでに発表をお考えの方も、これからという方も、ぜひこの機会をご利用ください！

【12:10-14:10】 調査研究推進委員会「ワールドカフェ」 会場:D53講義室

「日本語教育の世界」はどこまで広がっているのでしょうか？カフェでの気軽なおしゃべりのように、頭や心を優しくほぐしながら「日本語教育の世界の輪郭」をみんなで描いてみませんか？皆さんが日頃考えている「テーマ」、抱え込んで悩んでいる「課題」、興味を持っている「活動」などを「共有」し合いながら、一人ひとりの思いや悩みと「日本語教育学」や「日本語教育学会」がどのようにつながっているのか、一緒に考えてみませんか？昼食持参でご参加ください。詳しくは[こちら](#)をご覧ください。

【14:20-15:50】 **研究発表(ポスター発表)** 会場:D56講義室

※本発表は査読審査を経た学会発表です。発表要旨は本プログラム末尾、詳細は予稿集をご覧ください。

学習者の主体的な学びを実現するためのカリキュラム構築
—日本大学日本語講座におけるカリキュラム構築の過程と実践—
田川恭識(日本大学), 中村律子(同)

【14:20-15:50】 **交流ひろば(後半)** 会場:⑧~⑪ D51講義室

⑧ **在日留学生の異文化適応とストレス・コーピング—交換留学生のケース・スタディをもとに—**
奥村圭子(山梨大学)

留学生、そして留学生教育に携わっている先生方やサポーターの皆様、留学生が新しい環境の中でどのように異文化適応をし、抱えるストレスにどう対処しているか、ホスト役としては何ができるか、また留学生側からは何を期待するかなどについて、さまざまな意見交換ができることを楽しみにしています。

⑨ **MS エクセルの VLOOKUP 関数を利用した時間割作成補助ツール**
中川健司(横浜国立大学)

時間割作成は、学習環境を整備する「教室の外」の仕事の一つであるが、いつ(何時限目に)どこで(どの教室で)だれが(どの教員が)何を(どの授業を)という情報を整合性を保ちつつ管理する必要があり非常に煩雑な作業を要求される。発表者は時間割作成作業の軽減を目的として、MS エクセルの VLOOKUP 関数を利用した時間割作成補助ツールを作成した。

⑩ NIE 授業の自己評価について

富並美希（中央工学校附属日本語学校）

私は勤務校の留学生に1年間新聞を題材とした授業を行い、授業について学習者に内容・表記・発表の3つのcan-doで自己評価をしてもらいました。今回はこの研究の結果を提示しNIE、協働学習、学習者自己評価などに関心のある方と情報交換ができればと思います。ぜひお越しくください。

⑪ 留学生への大学院進学指導－研究計画書作成と希望指導教員へのコンタクトを中心に－

平山允子（日本学生支援機構東京日本語教育センター）

大学院進学を志望する留学生への進学指導について、お悩みの声をあちこちで聞き、実践共有の必要性を感じています。私も勤務校で試行錯誤・四苦八苦しながら大学院進学指導を行っていますが、その内容を公開し、他校の先生方との情報交換のきっかけにできればと考えています。話したい方、聞きたい方、ぜひお越しくください。

【14:50-16:20】 **講演** 会場:D53講義室

「アクティブラーニングを取り入れた授業実践」

講師: 黒崎誠氏・黒崎亜美氏(ラボ日本語教育研修所)

「アクティブラーニング」という言葉はよく耳にしますが、これまで行ってきたグループ活動や調べもの学習との違いをしっかりと認識している方は少ないように思います。今回の講演では「アクティブラーニング」とはどのような学習なのかその考え方を確認したうえで、日本語教育の現場に取り入れるとどのように教室活動が変わるのか、どのような可能性が広がるのか、実践例も紹介しながら参加者と共に考えたいと思います。教室活動の改善に向けて新しい視座をお探しの皆さん、ぜひご参加ください。

【16:30-16:40】 **閉会式** 会場:D53講義室

◆問合先◆公益社団法人日本語教育学会 支部活動委員会
〒101-0065 東京都千代田区西神田2-4-1 東方学会新館2F
TEL:03-3262-4291 FAX:03-5216-7552 E-mail:shibu@nkg.or.jp

[2018 年度第 4 回支部集会(文化外国語専門学校), 2018.10.28, 口頭発表]

母語話者日本語教師の属性による教授不安の差異

—日本語学校および専門学校に勤務するアンケート調査の結果から—

布施悠子

本研究は、母語話者日本語教師を対象に行った量的調査をもとに、日本語教師の属性による教授不安の差異を明らかにすることを目的としたものである。分析の結果、統計的に教授不安が有意に高い量的調査の質問項目は、①教育歴1年未満の教師の「自分の教え方」「日本語教師としての適性」、3年以上5年未満の教師の「学生の教材への興味」、②20代教師の「クラスの雰囲気作り」「学生の理解」「同僚の教師との指導方針」、40代教師の「学生とのコミュニケーション」「自分らしい授業」「教材の使いこなし方」「教材の利点を生かす教え方」、③男性教師の「自分の授業中のふるまい」「学校が決めたスケジュール」「学校の教材」「学校の設備」、④初級担当教師の「説明のわかりやすさ」「金銭面」、中級担当教師の「授業のおもしろさ」「誤用訂正」「質問への回答」であった。また、⑤非常勤教師は常勤教師に比べ、統計的に教授不安が有意に高い項目が多かった。

(一橋大学大学院生)

[2018 年度第 4 回支部集会(文化外国語専門学校), 2018.10.28, ポスター発表]

学習者の主体的な学びを実現するためのカリキュラム構築

—日本大学日本語講座におけるカリキュラム構築の過程と実践—

田川恭識・中村律子

発表者らの所属する大学の日本語講座では、主に交換留学生を対象として日本語教育を行っている。当講座では月曜日から金曜日の午前中に開講される総合日本語型クラスと、2017年度以前の午後には、自由選択できる読解や作文といった技能別選択科目クラスが開講されていた。しかし選択科目クラスの中には履修者がゼロで、不開講となってしまうクラスも少なくなかった。そこで発表者らは選択科目クラスのカリキュラムを抜本的に改定することとした。その結果、新たに「異文化体験」、「クリエイション」、「コミュニケーション」、「探究」、「自律学習1・2」の科目が誕生した。新科目の特徴として、履修上のレベル制限を撤廃、あるいは大幅に緩和したこと、日本人学生ボランティアを受け入れ、留学生のみならずボランティアとの協働学習に力点を置いたことが挙げられる。改定後の授業評価では留学生、ボランティアから高い評価が得られ、一定の成果が挙げられた。

(日本大学)